

国登録有形文化財となっている武庫川女子大の甲子園会館（西宮市戸崎町）が25日、ライトアップされた。米国の建築家フランク・ロイド・ライトの弟子が設計した名建築が暗闇に浮かび、訪れた人々を魅了した。

（土井秀人）

# 名建築 宵闇に浮かぶ

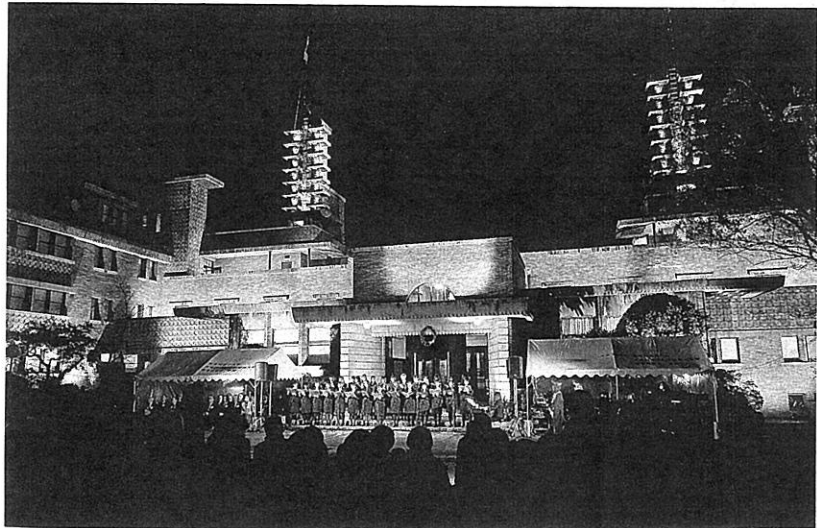
会館は1930年に甲子園ホテルとして開業。ライトの弟子の遠藤新が設計を手掛け、「東の帝国ホテル、西の甲子園ホテル」と称された。

ライトアップは同大学の建築学科が開設された2006年から毎年実施。地域の風物詩として親しまれ、入場者が5千人を超えた年もあった。今年は会館と敷地内の日本庭園を約200基のライトや電球約10万個で彩った。

この日は午後5時すぎから点灯式が開かれた。いったん全ての照明を消した後、カウントダウンで一斉に点灯。訪れた人はカメラやスマートフォンで熱心に写真を撮るなどして楽しんだ。近くに住む橋本正則さん（71）は「池に映った紅葉の揺らぎが素晴らしい、建物の魅力もライトアップでさらに増している。何回か来ているけど、今日が一番いいですね」と話した。

ライトアップは26日午後5時～8時にも行われる。同大学 ☎0798・67・0079

## 武庫川女子大 甲子園会館ライトアップ ライト200基、電球10万個で彩り



ライトアップされ夜空に浮かび上がる甲子園会館。点灯式では武庫川女子大音楽学部生の合唱などが行われた＝西宮市戸崎町